

6 今年度の重点課題に対する総合評価

本校の役割は、不登校経験者の学び直し、障害や困難を抱える生徒への特別な支援、外国につながる生徒への配慮など、多岐にわたっている。そうした生徒一人ひとりに対して、先進的な教育手法による基礎学力の保証はもとより、社会で自立して自己実現を図る力を育むことが重要となっている。そのため、今年度は5つの重点課題に取り組んだ。

- (1) 「学習活動」として、単位修得率は目標をほぼ達成できたものの、昨年度よりやや下がっている。今年度、生徒が日頃の学習を自己管理できる「毎日の授業の記録」を使いやすい様式に変えたが、まだ十分に活用されているとは言えない。「学習時間調査」の結果、1日あたりの学習時間は平均1時間程度であり、家庭学習のための課題の工夫などの方策が必要である。
- (2) 「学校生活」を多くの生徒はルールを守って過ごしているが、今年度取り組んだ「あいさつ」の定着と遅刻の防止については十分とは言えず、基本的な生活習慣の確立に向けて引き続き対応が求められる。授業においては、ユニバーサルデザイン化に対する教員の意識の高まりとともに、一人ひとりの教員が生徒の心の健康にも配慮するようになってきている。今後は積極的に生徒の良い点を見つけてほめることにもより力を入れる必要がある。
- (3) 「進路支援」として、進路決定率は目標を達成できているが、生徒の進路希望が多様化してきており、様々な機会に進路情報を提供して家庭とも連携しながら進路選択のミスマッチを防ぐことが求められる。本校では、達成目標に掲げた年次ごとの進路ガイダンスを年間3回以上実施している他、個別指導にも力を入れている。今後は、ポートフォリオの効果的な活用や新制度入試への対応を進め、新たな進路指導を具体化したい。
- (4) 「特別活動」としては、学校行事への出席率が80%台に留まっていることが課題だが、参加した生徒の満足度はどの行事でも高く、人間形成の育成に功を奏していると考えられる。図書の貸出率については目標値を下回っており、今後は授業での調べ学習や読書を促す図書行事の開催など、図書室の利用についても対策を進める必要がある。
- (5) 「資格取得」は専門学科の生徒の自信につながり進路意欲も高まっている。今年度は上位級へのチャレンジが増えた分、合格率が下がった資格もあるが、生徒の実態を踏まえた検定指導の研究や個別指導の工夫により合格率の向上を目指したい。

7 次年度に向けての課題と方策

本校では、多様化する生徒のニーズに対応し、学校全体のユニバーサルデザイン化とインクルーシブ教育の充実を組織的に進めている。そのため、「思考力・判断力・表現力」を育むための授業改善、ICT教育の推進、通級指導による個別指導・個別支援、SC・SSWを活用した教育相談の充実等を図っているところであり、次年度はより一層積極的に研修や連携を進め、きめ細やかな教育を実践したい。

また、新教育課程の実施に向けたカリキュラムマネジメント、新共通テストへの対応など、大きな変革への対応も教職員一丸となって取り組みたい。

(様式5)

8 学校アクションプラン

2019年度 志貴野高等学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	・単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る） ・生徒の学習実態の把握		
現 状	・安易に授業を休む生徒が見受けられる。 ・学習意欲がなく、学習習慣が身についていない生徒が見られる。 ・学力差があり、一斉授業が難しいこともある。		
達成目標	①単位修得率		②「学習時間調査」の実施
	90%以上		2回（前期1回、後期1回）
方 策	・日々の「学習の記録」（出席記録、学習時間の記録、学習内容等の記録）を、生徒一人一人に記録させる。 ・生徒が自らの学習の記録を確認することによって、授業に参加することの意義を知る。 ・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成する。 ・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 ・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実する。		・生徒自身にも自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を、年2回実施する。 ・家庭での学習活動が充実するように、教材、授業などを工夫する。
達成度	・単位修得率 91.2%（前期） ・単位修得率 87.5%（後期）		・2回実施
具体的な取組状況	「毎日の授業の記録」を、生徒が使いやすい様式に改めたが、定着しなかった。		・前期、後期の期末考査期間中に2回の調査を行い、生徒の学習時間の把握に努めた。 ・集計データを職員に報告するとともに、生徒の実態把握のために利用した。
評 価	B	単位修得率は後期で目標に到達しなかったものの、年間で見るとほぼ達成することができた。	B 実態の把握は進んだ。
学校関係者の意見	・かつて不登校を経験した生徒たちも、現在は教員の支援もあり、学校へ通えるようになっていることは大変すばらしい。 ・欠課時数が増えてきた生徒に注意を促すカードを提示するシステムも、効果的に機能しているのではないか。 ・考査に向けての学習計画、提出物の締め切り日など、大人は手帳にメモを取ってタイムスケジュールを行うが、高校生はそこまでできない。ポートフォリオの活用など、何か工夫できるとよい。 ・学習時間調査は教師の指導に生かすとよい。		
次年度へ向けての課題	「毎日の授業の記録」については、より使いやすいように様式変更を行い、その意義を十分に説明し、単位修得率の向上につなげたい。		これまで以上に、家庭での学習が定着するような工夫が必要である。

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかという達成できていない D:ほとんど達成できなかった

2019年度 志貴野高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活			
重点課題	・ 基本的生活習慣の確立及び自己管理能力の育成 ・ 支援を必要とする生徒のための校内体制の整備			
現 状	・ 「時間の厳守」が苦手、始業のベルに間に合わない生徒がいる。 ・ あいさつ運動期間中は、自発的に挨拶をできる生徒が多いものの、年間を通して挨拶を交わし合える学校になるためには、あいさつ運動に工夫が必要である。 ・ 自分の健康状態を把握できず、適切な対応ができない生徒がいる。 ・ 友達や保護者等との適切な人間関係の作り方を理解しているものの、実践できないため、学校生活に支障をきたす生徒がいる。 ・ 授業や行事などで「困り感」を持った生徒が多数いる。			
達成目標	② 学校生活アンケート		②ユニバーサルデザインのアンケート (年2回)	
	あいさつ・遅刻について 良好またはおおむね良好 70%以上		各項目で「できている」のスコア 50%以上	
方 策	・ 毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直させる。 ・ 生徒校風委員の主体的な「あいさつ運動」を通して、あいさつの習慣を身に付けさせる。 ・ 保護者の協力を得ながら、安全なネットの利用や基本的生活習慣の確立、規範意識の向上を促す。		・ 新着オリエンテーションや職員会議で「学校ユニバーサルデザイン」について説明し、各分掌でユニバーサルデザインに関して工夫・実践するよう促す。 ・ 通級による指導に関する教員研修を行う。 ・ 生徒、保護者、教員のために「共生社会を目指した学校作り」をテーマとした講演を行い、障害の有無に関係なくすべての生徒が学校生活を安心して過ごすことができるようにする。	
達 成 度	・ あいさつをする 57.6% ・ 遅刻をしない 66.8%		できている 30% 少しはできている 54% あまりできていない 15%	
具体的な取組状況	・ 生徒校風委員の主体的な「あいさつ運動」を通して、あいさつの習慣を身に付けさせる。 ・ 遅刻防止のため職員による校内巡視を行う。		・ 「学校のユニバーサルデザインに関するアンケート」を年2回実施。 ・ 「保健だより」や「ビタミン愛」の定期配付 ・ 入学式でのSCとの面談による生徒の状態を把握する。 ・ SCによる教員研修会で、支援を必要とする生徒への対応方法を学ぶ。 ・ SCや外部講師による講演会の実施。 ・ 通級担当者による通級指導に関する研修会を実施、共通認識を図る。	
評 価	C	・ あいさつについては昨年度（58%）と大きな変化はなかった。 ・ 遅刻に関してはクラス担任等から家庭との連携を取っているが著しい改善が見られない。	B	達成目標には届かなかったものの、昨年との比較を行うと、「できている」で5%、さらに「できている」「少しはできている」の合計が84%と2%上昇しており、教員の意識が高まっていると考えられる。
学校関係者の意見	・ 遅刻対策として、朝ご飯をしっかり食べるよう指導している定時制高校もある。家庭と連携して朝食指導も必要ではないか。 ・ SNS上のトラブルは、生徒の意識の問題もありアンケートなどでは表面化しにくいことがある。教師による面談、聞き取りなども求められる。			
次年度へ向けての課題	・ コミュニケーションが苦手な生徒もおり時間をかけて改善していく必要がある。 ・ 生徒の生活習慣の見直しなど根本的な指導が必要となっている。 ・ SNSに関するトラブルが多い。		・ 「学校のユニバーサルデザインに関するアンケート」の内容をより本校の実態に合うように精選し、実施。 ・ 学校行事等の機会を捉えて、SCの活用などを保護者に提示することで「保護者の困り感」への対応を行う。	

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかというと達成できていない D:ほとんど達成できなかった

2019年度 志貴野高等学校アクションプラン - 3 -			
重点項目	進路支援		
重点課題	・進路実現に向けて学校全体で支援する体制づくり ・年次の状況に応じた進路支援と主体的な進路選択		
現 状	・進学・就職ともに地元志向が強く、県内及び隣接県への希望者がほとんどである。 ・各年次における生徒状況が異なるため、それぞれに応じた指導が必要である。 ・進学か就職かを決められずにアルバイトを選択するなど進路未定者がいる。 ・進路選択でミスマッチになる生徒がいる。		
達成目標	① 希望する進路の内定率の向上		② 計画的・継続的な進路指導の実施
	進路決定率 90%以上		各年次の進路ガイダンス年3回実施
方 策	・面接指導や保護者会等をととして生徒や保護者に的確なアドバイスを行い、進路選択のミスマッチをなくす。 ・学校全体で新制度入試や新カリキュラムに即した進路指導ができる体制をつくる。		・進路ガイダンス、進路見学会、適性検査、進路講話等を計画的に行うことで、主体的に進路を選択する力を育成し、進路意識の高揚をはかる。 ・日々の行動を記録する習慣をつけさせて、自己の目標に向かっていくか振り返りをさせながらキャリア形成をはかる。 ・基礎学力向上講座、一般常識コンクール、面接指導等を計画的に実施することで、学力の向上や定着に努める。
達 成 度	95.2% (2/29 現在)		各年次それぞれ3回以上の進路関連事業の実施で一定の成果があった。
具体的な取組状況	・個別指導の強化で進路実現が達成できるような体制づくりに努めた。 ・学校だけで就職指導が困難なケースでは積極的にハーローワークの支援を求めた。		新制度入試に備えるためポートフォリオ導入や英語民間試験対策に取り組んだ。 (ただし英語民間試験対策は年度途中で打ち切った。)
評 価	A	進路未決定生徒への支援継続が必要である。	A 計画どおり実施した。
学校関係者の意見	・進路のミスマッチ、就職後の離職率を減らすような取り組みが必要である。 ・ポートフォリオを活用することで、自分自身を知るメタ認知の学習にもつながる。 ・今後の社会の変化が見通せない中、進路の情報はネットを活用するなどして様々な機会に与える必要がある。		
次年度へ向けての課題	就職希望が増加傾向にあり、企業との情報交換が重要となる。		新制度入試最初の受験生に向けた的確な進路情報の収集と提供が求められる。

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかというと達成できていない D:ほとんど達成できなかった

重点項目	特別活動		
重点課題	・学校行事、ホームルーム活動等における生徒の積極的な参加の促進		
現 状	・生徒会活動や学校行事の参加に消極的な生徒もいる。また募金活動、ボランティア活動、保育園や障がい者施設での交流などに参加する生徒数も減少傾向にある。		
達成目標	特別活動に参加した生徒の満足率		年に1冊以上本を借りる人数
	80%以上		90%以上
方 策	・生徒会を中心に、生徒の意見や要望を行事に積極的に取り入れ、参加意識を高める。 ・事後アンケートを実施し、生徒の満足度や問題点を把握する。 ・満足度の低かった生徒の声に耳を傾け、より多くの生徒が充実感を得ることができるよう工夫する。		・図書委員ミーティングを月1回開催し、生徒主体の研修を実施する。 ・リクエスト帳を活用し、図書委員を中心に読書意欲を喚起する。 ・図書だよりの内容を充実させ、来館者の増加や読書意欲の喚起に努める。 ・HRの時間等を利用して読書指導を行い、図書室の利用を図る。
達 成 度		出席率 満足度 校内生活体験発表大会(7月) 85.3% 97.4% スポーツ大会(9月) 88.5% 97.4% 文化祭(11月) 85.4% 97.1% 百人一首カルタ大会(2月) 89.1% 95.6%	103人 (生徒数212人) 貸出率48.6%
具体的な取組状況	・企画・運営を担当する委員の作業内容を具体的に示し、生徒の興味・関心にも考慮して、生徒が行事に主体的に参加できるよう工夫した。 ・ボランティア活動について考察し、特徴ある活動となるよう検討した。		・蔵書点検を行い、図書館運営委員会で、今後の利用促進に向けて運営の方向性を確認した。 ・生徒図書委員会は図書館だよりの編集・発行や、文化祭での展示・ワークショップなどの地道な努力を重ねた。
評 価	B	生徒の満足度は各行事において高い結果を得ているが、出席率が低下傾向にあるため、今後は参加意識を高める工夫が必要である。	C 生徒・教職員の利便性を考慮した図書館運営を心がけたが、利用者が目標の半数に達していない。
学校関係者の意見	・文化祭を訪れたが、歌・演劇・ダンスがあり、また夜間の生徒たちの模擬店もあり、大変良かった。教員の指導が行き届いていることが伺える。 ・出席率について、大学では行事に参加することで単位のポイントになるという制度もある。 ・現代の子供たちの図書離れは課題である。他の定時制高校でもやはり数値は低い。 ・生徒が図書館に行った割合を目標値にしている定時制高校もある。本を借りたかどうかだけでなく、授業で図書館を利用して調べ物をしたり、朗読会やビブリオバトルを開催したりするなど、広く図書館を利用したかどうかを見るという観点もある。		
次年度へ向けての課題	・行事の出席率を上げるよう工夫する。 ・部活動、ボランティア活動などに参加する生徒を増やす工夫をする。		読書習慣を育てるためにも、特活時間や授業時間を活用して、図書館利用の宣伝と利用方法の周知を続けると同時に、蔵書の継続的な点検整備が必要である。

評価基準

A: 達成した

B: ほぼ達成した

C: どちらかというと達成できていない

D: ほとんど達成できなかった

重点項目	検定取得		
重点課題	・「情報ビジネス科」：専門教科の学習指導の充実と学力の定着を図るため、各種検定試験に対して効果的な対策を行い、受検率と合格率の向上を ・「生活文化科」：体験的、主体的な学習の取り組み態度を育成するため、被服、食物、保育、情報の各分野において、各種検定試験に取り組み、合格を目指す。目指す。		
現 状	・各生徒の事情により、文章の読解力や計算能力など、基礎力が不足している生徒が見られる。 ・簿記や情報処理など、論理的思考力や計算能力が必要な専門科目において、内容の理解がおそい生徒がいる。 ・社会生活への関心や問題意識が低い生徒が見られる。 ・生活体験が少ない生徒もいる。		
達成目標	「情報ビジネス科」における各種検定		「生活文化科」における各種検定
	受検者の合格率70%以上		受検者の合格率90%以上
方 策	・生徒個々の理解に応じた指導や教材の活用を通じて、基本的な学習内容を確実に定着させ、更に発展的な学習内容への関心と意欲を高める。 ・関連する授業の充実に努め、学習効果の高い教材を活用して受検対策を行い、検定合格を目指す。		・各科目における体験的・実践的学習により、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 ・各種検定の合格に向けて、自主教材や過去問題等の事前学習に取り組みさせる。
達 成 度	合格率 63.0%		合格率 93.6%
具体的な取組状況	・始業前や放課後等を活用した個別指導や補習活動によって、検定試験合格に必要な学力の定着を目指した。 ・習熟度による指導等、授業の工夫や週末、休業期間中の学習課題等の取り組みで自ら学ぼうとする学習意欲の向上を図った。		・実技試験においては、個別指導や補習、家庭学習によって実技の定着を図った。 ・STやHRにも筆記試験対策を行い、合格に意識を向けた指導を行った。
評 価	C	全体合格率は63.0%で目標を下回った。内訳は「珠算・電卓検定」70.1%, 「ビジネス文書検定」67.8%, 「情報処理検定」45.9%, 「簿記検定」48.2%だった。	A ・被服、食物、保育については再受験を含めるとほぼ100%である。 ・ビジネス文書は上位級に意欲的に挑戦した。
学校関係者の意見	・簿記の合格率が昨年より高くなっている点は評価できる。 ・卒業生も活躍しており、成果が出ている。 ・上位の検定に合格した生徒の氏名を大きな垂れ幕で示すなどして、広くその成果を表彰するという方法もある。		
次年度へ向けての課題	・基礎基本から発展的な知識や技術を習得できるよう、効果的な指導法や教材・教具の活用などを工夫する。 ・生徒自らが高い目標を持ち、学ぶ意欲を持てるよう必要な支援を行う。 ・効果的な指導法や教材など、職員の意見交換や協力体制の確立に努める。		・1年次の食物・被服検定を手厚く指導し、1回目で合格できるよう指導法を工夫したい。 ・情報は今年度入学生から2年次・3年次と継続履修できるように教育課程を変更し対応した。

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかというと達成できていない D:ほとんど達成できなかった